



本村幼稚園 7月の園だより

令和3年6月30日 港区立本村幼稚園長 山村 登洋

笑顔いっぱい1学期

園長 山村 登洋



■笑顔いっぱいの夏祭り

新型コロナウイルスに翻弄された令和3年度の1学期も、残すところ約3週間となりました。

その中において、6月23日の「ほんむら 夏まつり」には、多くの保護者の皆様、地域の皆様にご参加いただきまして誠にありがとうございました。蔓延防止

等重点措置中での実施でしたので、いろいろと制限はありましたが、久しぶりに楽しい行事を行えたという気持ちになったのは私だけでしょうか。子供たち、保護者、地域の皆様、そして私たち教職員が一緒に笑顔になることができました。子供たちは夏祭りの成功のために長い時間をかけて遊戯やお店づくり、お店当番の練習もしてきました。その子供ながらの一生懸命さが、当日の夏祭りに大いに発揮されたと思います。地域の皆様には、子供たちが大好きなバルーンアート、ヨーヨー釣りの2つのブースを開催していただきまして、ありがとうございました。また、PTAの皆様には、素敵なお神輿やチラシの制作をはじめ当日の事前準備、後片付け等、本当にありがとうございました。保護者、地域の皆様に支えていただきながら無事に夏祭りを終えられたことに心から感謝申し上げます。こうした子供たちの達成感の積み重ねが、子供の自己肯定感に繋がっていきます。とにかく嬉しいですね。



■「遊びは学び」ということ パート2

6月号に続き、今月も「遊び」についてお話をさせていただきます。幼児期の遊び体験から学んだことは、子供たちにとって大きな成長を呼び起こします。私たちは子供たちが「遊び」を続けていく中で、「自立して生きていく力」を育てていくことができると感じています。例えば、大人や他人に影響されずに自分自身で考えていくことや人とのかわり、そのかわりの中に自分が存在しているという実感は、子供たちが小・中学校教育の中で学び重ねていく基盤となるものです。

そのような実感は、体験しないと身に付いていきません。子供が自らの身体で感じて、習得していったものが、その後の成長過程において大きな影響を与えていきます。幼児期は机に向かって受け身的な時間を過ごすより、たっぷり遊んで、その中から学ぶということがいかに重要かお分かりいただけると思います。

■いよいよ夏休み

7月末より長い夏休みに入ります。新型コロナはまだ終息されそうにはありませんが、そんなコロナ禍でも少しでも多くの体験活動をさせてあげてください。よい夏休みをお過ごしください。1学期たくさんのお支えをありがとうございました。

